

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第 046 号

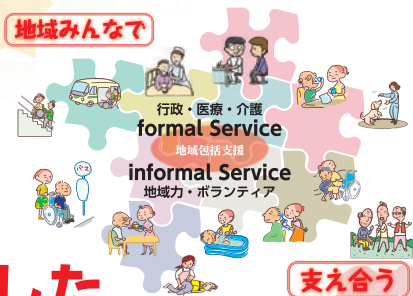
2019 年 7 月 10 日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

第25回 全国の集い in 東京2019

地域医療研究会 全国大会 in 東京2019
東京(合同)大会 実践交流会



**演題募集要項締め切り延長いたしました
締め切り: 7月31日**

昨年より登録方法が大きく変わったため改めてご案内をさせていただきます。
参加登録の方法について手順で迷われた場合、直接大会事務局まで
ご連絡いただければ登録のサポートをさせていただきますので下記あてに
お問い合わせください。

**事務局に
直接ご連絡頂ければ
登録のサポートを
させていただきます。**

実践交流会に関してのお問い合わせ先

NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第 25 回全国の集い in 東京 2019

地域医療研究会全国大会 in 東京 2019 合同大会

2019 年度実践交流会 事務局担当 (いらはら診療所 事務局 担当: 浅沼、田中)

TEL : 047-347-2231 FAX : 047-347-2551 e-mail : 2019-zenkokutai@irahara.or.jp

WEB から登録をお願いします。

昨年から登録方法が変わりました。

〈応募資格〉

○当会会員 (賛助会員は除く)、地域医療研究会会員 (非
会員の方は応募は出来ません。ご加入後お申し込みく
ださい) 入会に関しては当会 HP 入会案内をご参照く
ださい。

○申込について

演題の申し込みはホームページから“実践交流会申込
書”(Word)をダウンロードして、必要事項を記入の上、
以下のメールアドレスにお申し込みください。

ホームページ URL:

[http://kinki-convention.jp/tsudoi2019.tokyo/
index.html](http://kinki-convention.jp/tsudoi2019.tokyo/index.html)

申込用メールアドレス:

2019-zenkokutai@irahara.or.jp

第 25 回全国の集い in 東京

実践交流会演題登録申込書

〈演題募集締切〉

2019 年 7 月 31 日まで延長しました。

募集締め切り後、7 日程度で「採択メール」が届きます。

※カテゴリーが変更になる場合もございます。発表順は「カテ
ゴリーごとの交流の会議室」へ掲載されますので、確認して
から投稿をお願いします。

〈応募カテゴリー〉

1. 在宅生活の継続
2. 訪問サービス・通所サービス
3. 緩和ケアと看取り
4. 人材育成・教育
5. 地域で支える認知症ケア
6. 口腔ケアと栄養管理
7. 地域包括ケア
8. 新しい試み
9. 薬の医療介護連携

- ・ 1 演題あたり発表 7 分、質疑応答 3 分を予定しており
ますが、カテゴリー毎の演題数などにより座長が調整
する場合があります。
- ・ 演題数や内容により、発表カテゴリーの変更をお願い
する場合があります。

各カテゴリーの趣旨は p2 ~ p3 の通りです。

実践交流会 各カテゴリー主旨について

各カテゴリーの趣旨を掲載致します。
登録時のカテゴリー選択の一助になれば幸いです。

各カテゴリー部分をクリックされると巻末の
昨年の演題タイトルが表示されます。(そのまま
送っていただいてもご覧になれます)

1. 在宅生活の継続

理事座長：小倉 和也 東京大会座長：春田淳志（地域医療研究会）

在宅医療・介護連携推進事業が自治体事業となった平成30年度において、在宅生活を継続するためのそれぞれの地域ごとの地域包括ケアシステムの構築が本格化しています。これまでの取り組みを継続しつつ、地域づくりと地域全体の事業所間連携・多職種連携の中での役割を意識した新たな取り組みが求められています。この交流会が各地の取り組みを共有し高め合う機会となることを願っています。また、実践交流会での交流を一度きりではない継続した交流と情報交換につなげるため、前回大会から導入されたWeb会議室機能を用いて、大会終了後も情報交換を継続していきたいと思います。

2. 訪問サービス・通所サービス

理事座長：岡崎 和佳子 東京大会座長：安西順子（在宅ケア全国ネット）

介護が必要となった時、在宅生活を継続するために、「訪問サービス」、「通所サービス」はかせないサービスです。そのため、利用者やご家族の要望や期待も高く、ケア職の腕の見せ所、活躍できる所だと言えます。2000年4月に介護保険制度が始まって以来、ケア職は、日々目の前の利用者の援助について努力や研鑽を重ねて来た事は間違いありません。

このカテゴリーでは、現場の実践の中から得られたもの、工夫した事、成功事例や困難事例、また課題や悩み等、まさに現場の声を報告していただきたいと思います。

語り、感じ、創造し、明日の実践へつなげましょう！全国のケア職の仲間達が元気になる場にしたいと思います。エントリーお待ちしています！

<キーワード>

「地域包括ケア」「住民参加」「地域課題」「地域ケア会議」「ごみ屋敷」「ご家族への支援」「情報共有」「連携」「利用拒否へのアプローチ」「ストレンスを引き出す」「介護保険利用の卒業」「残業を減らす工夫」等々

3. 緩和ケアと看取り

理事座長：中嶋 啓子 東京大会座長：安藤親男（地域医療研究会）

「緩和ケア」「看取り」この言葉に対して、皆さんはどのような印象をお持ちでしょうか。在宅ケアを支えている皆さんにとって、マイナスイメージはほとんどないと思います。しかし、病気を持ちながら必死に過ごしている多くの人にとっては「もうおしまいだ」などと悲観的な思いを抱く言葉でしょう。そうした思いを否定することはできませんが、こんなふうに過ごしていきたい、こんな感じで最期を迎えたい、という願いは誰もが持っているはずですので、それを叶えるべく少しでも前を向いていく気持ちになれる皆さんの経験談を紹介していただきたいと思います。

緩和ケアを受ける本人が主役であることは当然ですが、家族などそれを見守る側も主役級存在です。また、癌だけが緩和ケアの対象ではありません。本人も家族なども、もちろん独居でも、どんな病気でも日々穏やかに過ごしていけることを改めて皆さんと考えていきます。

緩和ケアの延長に看取りが存在しますが、それで完結ではないと思います。看取る側の日々はそれから続きます。グリーフケアなど看取った後の皆さんの取り組みの報告もお待ちしております。

最期を迎えるまでの時間を嬉しさいっぱいで過ごす人などいません。そのような中でもあたたかくほっとできる瞬間をつくれるといいですね。この実践交流会のカテゴリーでは、そうした報告を聞いて自分のところに持ち帰り次につなげていく小さなきっかけとなる場を目指したいと思っています。

4. 人材育成・教育

理事座長：桑原 由次 東京大会座長：菅原由美（在宅ケア全国ネット）

前回のOSAKA大会において、久しぶりに実践交流会の座長を務めさせていただきました。報告を受けて感じたことは、発表者の皆さんのプレゼンがとても上手になられたことです。それぞれに「起承転結」を意識しながら工夫を凝らした発表でした。正直言って全部をフォローアップにしたい気持ちでした。しかし、発表後には「行間に何があったか、どんな苦労があったのか、どこに悩んだか、そんなことをぜひ伺いたかった」とも述べさせていただきました。会場の皆さんも同じ感覚をもたれたと思います。

事業体にとって宝である人材の育成・教育は一筋縄とはいきません。少々大げさですが「血と涙と汗」が必要です。そのところを、もっと泥臭く、もっとありありと報告していただけたらとてもうれしく思います。東京大会実践交流会を、内容を深化させ、知恵を集め、共有する場にしましょう。

<キーワード>

人は宝。「うまくいかない、苦労した」ことが大事。

知恵を集め、共有しよう。



5. 地域で支える認知症ケア

理事座長：多湖 光宗 東京大会座長：山岸大輔（在宅ケア全国ネット）

日本は2025年には団塊の世代が75歳以上となり、認知症高齢者は700万人に達すると推測されています。人生100年時代に向けて、認知症になっても安心して住み慣れた地域で暮らせる社会の仕組み作りや、認知症の人がお世話されるだけの存在ではなくその人らしく活躍できるようなケアが問い直され、新しい試みもされてきています。

認知症の諸症状は脳の病気によるものだけでなく日常生活の中にも原因があることが分かり、薬物療法やケアの技法の見直しも進んでいます。ICTやAIの活用も試みられています。また、介護の現場には市民、行政、教育、民間企業など地域を巻き込んだ社会全体のネットワークも必要です。

認知症の人を多職種間で考え協働して支えていくと共に、家族やご近所さんに関わり互いに助け合い、介護の受け手も支え手も元気になる社会を目指していきましょう。

認知症ケアの最先端は、現場の実践の中にあります。皆様の現場での取り組みに関する演台を募集します。

6. 口腔ケアと栄養管理

理事座長：大川 延也 東京大会座長：町山裕美（在宅ケア全国ネット）

これまでの4年間で各々の地域特性に応じた地域包括ケアシステムづくりをしてきたことと思います。でもまだまだ未完成。病院から出された患者さんたちは何らかの障害をかかえながら在宅で生活復帰しなければならず、在宅で生活するということは、まず第一に「食べる」「栄養を摂ること」を考えなければなりません。

そこでこのカテゴリでは“生きるための栄養”ではなく、“元気になるための栄養・口から食べる”を考えるために病院医師、地域医師の立場、口の専門家の歯科医師の立場、そして現場で療養者を支える多くの多職種の立場、そして地域行政の立場、それぞれの立場から実践で見た問題点を発表していただき、みんなで考えていきましょう。在宅で元気になるために！

7. 地域包括ケア

理事座長：秋山 由美子 東京大会座長：北澤彰浩（地域医療研究会）

地域包括ケアの推進には、区市町村を基盤とし、その地域の属性、多様な資源の整備状況などを踏まえ、市民の参画と協働が不可欠です。ワンストップで分野を問わず相談支援を行うことや、サービスの提供にあたってはそれぞれの福祉分野の専門性に則りながらも支援を総合的に提供したり、ニーズの多様化や複雑化の中で多職種と連携してネットワークづくりに取り組んだり、自立支援や介護予防の実践を通して市民とともに地域づくりに取り組んだ例など全国各地で様々な取り組みが行われています。

この機会に我がまち、各分野での実践を是非発表しませんか。より良い地域包括ケアの推進についての課題や意見を出し合い、皆様と一緒に考え、他地域の方々との交流も深められるような交流会にしたいと思います。

8. 新しい試み

理事座長：吉永 隆行 東京大会座長：長田博昭（地域医療研究会）

「新しい試み」には他のカテゴリとは異なる「守備範囲」を有しており「事例そのもの」ばかりでなく、そこに含まれている様々な「知恵」に気づくことにより、また新たな「試み」に繋がる可能性を持っています。

このカテゴリでは様々な事例の発表でその「個々の試み」を伝えるだけでなく、他の発表を通じてそれぞれの「知恵」を感じ、持ち帰ることにより皆様の地元の活動に少しでも繋がっていく・・・そんな場にしたいと思っています。

些細な内容でも大きなヒントにつながります。失敗例は成功例よりも多くの知恵が隠されています。

9. 薬の医療介護連携

理事座長：萩田 均司 東京大会座長：玉井典子（在宅ケア全国ネット）

在宅医療を必要とする患者は、その殆どが薬を服用・使用している。高齢者は疾病を多く抱え、多科受診するうちに薬の種類が膨らみポリファーマシー状態に陥っている事にしばしば遭遇する。一方小児の在宅医療では、薬の調整が微妙で大変複雑である。在宅訪問する薬剤師は、まずは薬の整理から始まり、剤型の工夫、一包化やカレンダー等ツールを駆使して患者や家族等に分かり易く調剤する。しかし、最大の目標は、患者の疾病の治療とQOLの向上である。そこで、本交流会では、薬を題材とした調剤や管理の工夫、多職種連携で実践できた様々な症例、在宅医療や介護に携わる多職種や介護にあたる家族の薬に関する困った事やさらにはポリファーマシーへの対策などを学び議論し、在宅医療がより発展するためにはどうしたら良いかを考えていきたいと思ひます。

私の こだわり

今回は、来年開催予定の長崎おおむら大会の大会長をされる石田賢二様にお願いをしました。ページの企画「私のこだわり」には直接言及されていない文面ですが、長崎地域の紹介のその徹底ぶりから、むしろ長崎大会そのものが石田先生の「こだわり」であると感じました。普段行く機会があまりない地域です。この大会へ是非ご参加頂き、石田流「こだわり」を体感していただきたい・・・そんな感想を持ちました。



石田 賢二 みどりグループ代表
さくらクリニック
(長崎県大村市)

『長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産』は、昨年、世界文化遺産として登録されました。これはキリスト教禁教による宣教師不在の中、日本の伝統的宗教（神道、仏教）や一般社会と関わりながら信仰を続けた「潜伏キリシタン」の伝統の証となる12の構成資産からなる遺産群です。

その1つである原城跡は「キリシタンが何をきっかけとして『潜伏』することになった」を示す構成資産です。長崎地方のキリスト教伝来は1550年で、ザビエルが平戸で布教しました。

1587年に秀吉は伴天連追放令を発します。さらに、1612年に江戸幕府はキリスト教禁止令を発します。この地有馬では、キリシタン大名有馬氏より松倉氏に領主が変わり、領民は残酷非道なキリシタン弾圧を受け、さらに分不相応な巨城・島原城築城に使役と重税で苦しめられます。この状況に凶作など加わり農民の不満が爆発しました。これが、1637年10月に勃発した島原・天草一揆です。

この際に、天草四郎が率いる一揆軍が籠城し、1638年2月に落城するまで幕府軍と戦ったのが原城跡です。一揆軍は老若男女合わせて約2万数千人。幕府軍は約12万人。一揆軍はほぼ全員惨殺されています。この一揆がキリシタンの脅威を幕府に認識させ、1639年にポルトガル人の追放、ポルトガル船の入港が禁止され「鎖国」が確立しました。

そして1644年に最後の宣教師マンショ小西（母はキリシタン大名小西行長の娘、父は対馬藩主宗義智）が殉教し、国内に宣教師が明治時代まで存在しなかった中、自分たち自身で信仰を守り続けなければならなくなりました。こうした出来事のきっかけが原城跡で起こったことで遺産群の1つとなったわけです。この時代のキリスト教史には大村に関することが多数記載されています。

1563年に大村氏18代当主純忠が洗礼を受け、日本初のキリシタン大名となり、長崎港を開港します。また、1582年に「天正遣欧使節」が長崎から出航します。使節は伊東マンショ、

千々石ミゲル、中浦ジュリアン、原マルチノの4人です。

1590年に彼らが長崎に帰省した時には伴天連追放令により、情勢は大きく変わってました。ミゲルは純忠の甥です。後にキリスト教への不信から1人だけ棄教しています。個人的に興味を持ったのはマルチノです。

彼は追放先のマカオで亡くなりますが、以前マカオに行った折に世界遺産の「聖パウロ天主堂跡」を見学に行きました。現地のガイドから、「この地下に眠っている日本人がいるよ」と聞いてはいましたが、当時は聞き流しでした。この天主堂はイエズス会カルロ・スピノラのもと、日本から追放されたキリスト教徒と現地の人により、1620年から1627年の間に建造され、現在は複雑に彫刻されたファサードと68段の階段、地下納骨堂が残っており世界遺産となっています。

マルチノは1629年にマカオで没しています。マカオ文化局はこの天主堂跡を発掘調査の際、日本人キリスト教徒の殉教者、イエズス会の修道僧の遺骨や宗教遺物を多く発見しています。ここで、あの時現地のガイドが言っていた日本人とマルチノが繋がりました。

長崎の大村の歴史をマカオの彼が教えてくれたのです。この天主堂を設計したスピノラは、大村の「鈴田牢」に4年もの間収容され、1622年長崎で火あぶりの刑で殺されています。彼は天文学や建築学にも精通し、この牢の詳細図や書簡をヨーロッパに書き送り、その平面図は今でも様々なキリシタン関連本に転載されているそうです。さらに1657年に大村領内で「潜伏キリシタン」の存在が発覚する「郡崩れ」がありました。

大村藩郡村に住む百姓が長崎で、村のキリシタンについて口を滑らし、長崎奉行が大村藩に調べさせたと、郡一帯の住民がキリシタンであると判明し、608名を捕縛、斬首411名という一大キリシタン発覚事件です。大村での斬首者は131名でした。関連史跡は、「放虎原殉教地跡」、「妻子別れの石」、「胴塚」、「首塚」、「獄門所跡」などです。

さらに、1797年大村藩と五島藩との間に百姓移住の協定が成立し、大村藩外海地域より五島列島などへ移住を開始します。

その中の1つ、「久賀島の集落」は『恋人よ』の曲で知られる五輪真弓とゆかりの地です。「五輪（いつわ）」という姓は久賀島の「五輪（ごりん）」地区に由来しているとのこと。久賀島は彼女の父親の生まれ育った所で「旧五輪教会堂」はその信仰の中心でした。久賀島は外海地域からの開拓移民を受け入れ、既存の集落と共存し、互助関係を築きながら、ひそかに信仰の共同体を作りました。ここも構成資産の1つです。

**是非、ロマンの地、
長崎おおむらへ
お越しください!!**

さくらクリニック

〒856-0026

長崎県大村市池田1-50-1

TEL: 0957-53-8819 FAX: 0957-53-8337

リレー寄稿

地域包括ケア地域の現状

『最期まで普通の暮らしを』～共生ケアから包括ケアを学ぶ～



チワワを抱っこしているのが、私です(後列右から4人目)。

介護保険が始まる以前から在宅ケアに携わり、一念発起起業して16年になります。看護師の仕事に就き、大学病院で最期を迎える方の悲惨な現状を見て、「畳の上で死にたい」という世間の言葉に突き動かされてきました。どうにか自宅で最期の時を穏やかに過ごす事は出来ないものかと、様々な先人の方の活動に触発されての事です。

介護保険開始当初は、介護ばかりで、転職組の2級ヘルパー研修は毎回大盛況でした。介護の世界に足を踏み入れた異業種参入組は、こぞって人との温かみある関わりの仕事がしたくて…。とか、身内の看取りに関われなかった後悔から、せめて、人様のお役に立ちたいと介護職を選んでくださった方々に輝く未来が待っているかのようでした。

2004年2月に松戸市日暮5丁目で「宅老所・デイサービス ひぐらしのいえ」にて共生ケアを開所、2005年11月に現所在地に移転。2007年6月に高齢者・障害者滞在型住居「ひぐらし荘」、2009年8月に「地域密着型デイサービス となりんち」、2015年「ひぐらし訪問看護ステーション」開所、現在に至ります。松戸市は、幸運にも在宅医療が盛んな街で、この地に居を構えられたことは、ひぐらしにとって幸運な事でした。

当時から共生ケアとしてHIV感染の方、ALSで呼吸器装着している方、知的障害、高次脳障害、統合失調症、DV被害のシェルター等様々な生きづらさを抱えた方々と高齢者とが、日々一緒に過ごし、泣いたり笑ったりの日々が続いています。

この間、在宅医療との連携にて、多くの高齢者の看取りに関わらせていただくことができました。多くの方々は在宅主治医と相談し、片手盛りほどの内服薬を徐々に減量しました。代表的な例としては、薬をなしにして4年間変わらずに普通に生きて、3.11の震災後に97歳直前に老衰で看取ることができた、姑のフミさん。この人がこの道に導いてくれたといっても過言ではありません。

他にも、レビー小体認知症で、精神科病院で抑制されていたMさん。ひぐらしにお連れして、投薬の微調整ができ、症状軽減して3年間普通に暮らす事ができましたし、長い方では、ひぐらし開所以来のお付き合いのうえ、数年前にお二人の看板娘

— 千葉県松戸市 —

ひぐらしのいえ

代表 安西 順子

【勤務先】

有限会社 プラン・ウエスト 代表取締役
宅老所・デイサービス「ひぐらしのいえ」
宅老所・デイサービス「となりんち」
「ひぐらし訪問看護ステーション」

【所在地】

〒270-0023 千葉県松戸市ハケ崎 3-60-10
TEL: 047-341-6565 FAX: 047-701-5005

【主な著書】

『あなたが始めるデイサービス』寄稿(雲母書房)
『気づいていますか 認知症ケアの落とし穴』編著(中央法規出版)
『ボランティアが綴る ドキュメント 東日本大震災』寄稿(三省堂)
『認知症ケアのターミナルケア』6回シリーズ連載(認知症ケア最前線)
『症状別 観察のポイントと医療職へのつなぎ方』おはよう21・12回連載(中央法規)
『はいせつケア・リハ』寄稿(株式会社gene) 他



とも穏やかなお別れができました。

訪問看護ステーション開所後は、家族の介護の限界もあり、急遽お泊まりをお受けし、そのまま緩和ケア→看取りまでのお付き合いの方も増えています。

人材不足が叫ばれる業界内において、他国の労働力の受け入れや、ロボットの導入等に光が当たっているようですが、今年は新卒者の介護福祉士と20代の若い新人二人を迎え入れ、初の入社となるものができ、平均年齢もググッと若返ることができました。

ひぐらしのいえは、在宅医療の先生方、地域包括や多くの近隣ケアマネジャーの連携の元、制度に乗り切れない方々も、このように柔軟な対応ができる場所としてやって参りました。その反面、グレイゾーンとか、アナキーとか、「その日暮らし」と揶揄されながらも、地域に根差した施設を目指していこうと、今後も若い世代を中心に日々努力して参りたいと思います。



↓ 若いスタッフの二人 ↑



次回は、株式会社友愛メディカルの尾崎 秀子さんに
お願いします。(安西 順子)

理事会報告

2018 年度 第 4 回理事会

日 時：2019 年 5 月 26 日（日） 9：00 ～ 11：30

場 所：貸会議室プラザ八重洲北口 3F 6 号室

出席理事：秋山由美子、石田一美、石田賢二、苛原 実、大石佳能子、大川延也、大澤 誠、岡崎和佳子、小倉和也、
小山 亨、多胡光宗、長 純一、中嶋（久）、畑 恒士、萩田均司、藤村淳子、三嶋泰之、吉永隆行

欠席理事：青木佳之、太田秀樹、沖倉紅児、金井秀樹、金田弘子、黒岩卓夫、桑原由次、中嶋（啓）、中嶋 肇、長縄伸幸、
西嶋公子、新田國男、福田善晴、宮坂圭一、村山善紀、森本益雄

（敬称略）

全国の集い in 東京 2019 の理事会企画が決まりました。

2日目 午前(09:30-12:00) 第8会場

「多職種と市民の連携をどのように推進すべきか～多職種連携コンピテンシーの活用～」

座長：小倉副会長

演者：小谷康夫氏（ヘルパーステーション和翔苑 所長）

演者：瀬尾利加子氏（株式会社瀬尾医療連携事務所 代表取締役）

2日目 午後(13:30-15:30) 第8会場

ワークショップ「多職種連携のコンピテンシーについて」

多職種連携コンピテンシー研修の土台となる研修

（医療生協グループでの看護師向け連携研修と「施設でできる在宅医療と看取り」研修）についての発表と今後のプログラム作成についての意見交換

演者：春田淳志氏（筑波大学附属病院 講師）

他 2 名



全国の集い in 東京 2019 実行委員会よりのお願い

東京大会もあと 2 か月余りとなりました。登録方法等が変わったこともあり

1. 参加登録 → <https://va.apollon.nta.co.jp/tsudoi-2019-tokyo/>
2. 実践交流会演題登録 → <http://kinki-convention.jp/tsudoi2019.tokyo/jissen.html>
3. 会員各位による 協賛名刺広告 → 今号 P8 の事務局宛にご連絡ください。

などが例年よりまだまだ少ない状況です。会員各位のご協力を切にお願い申し上げます。

登録方法等で迷われている場合はご遠慮なく p8 の事務局までお知らせください。

佐倉プレ大会報告

令和元年5月25日 14:00～16:00

ウィシュトンホテル・ユーカリ（佐倉市ユーカリが丘）

東京大会大会長の三嶋大会長の地元において開催されました。

テーマは

「グリーフケア」

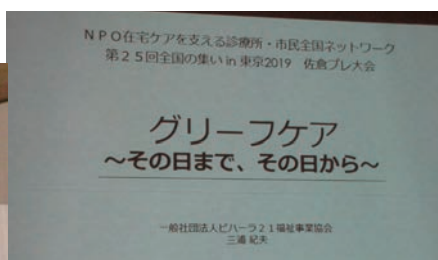
名前の通り「亡くなられた方」ではなく「残された方」を対象としたケアで、あまり知られていない部分に「光をあてる」ことを目的としたプレ大会です。

大会長発表、基調講演に続くシンポジウムは医療、看護、介護関係者ばかりでなく葬儀業者、僧侶、キリスト教会の方々も交えた実に多彩な（多面的な）幅広い厚みのある印象的な会となりました。

本大会でも引き続きこのテーマを掘り下げます。



基調講演 1 三浦紀夫 氏



三嶋大会長



伊藤武美 氏
(生活クラブ風の村訪問看護ステーション さくら)



海保太亮 氏
(松井葬儀社)



明石美華 氏
(生活クラブ風の村ケアプランセンター さくら)



杉山浩倫 氏
(末日聖徒イエス・キリスト教会)



穴戸英樹 氏
(穴戸内科医院)

NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第25回 全国の集い in 東京 2019 長崎プレ大会

すべての人に最期はくる ～ちゃんと決めんば、自分の最期～

会 期：2019年7月15日(月)
開場10:00 開演10:30 終演 15:40

会 場：市民交流プラザ プラザおおむら
長崎県大村市本町 326 番地 1

大会長講演：ちゃんと決めんば、自分の最期
長崎プレ大会長：石田 賢二
(さくらクリニック院長)

基 調 講 演：自利利他
～自分らしく生き・往くためには～
講師：大下 大圓(飛騨千光寺 住職)

シンポジウム
座 長：三嶋 泰之
(第25回 全国の集い in 東京大会2019 大会長)
石田 一美(在宅ケアを支える診療所・市民全国
ネットワーク理事、秋櫻醫院院長)

シンポジスト
・大下 大圓(飛騨千光寺 住職)
・城代 文香(大村市長寿介護課
地域包括支援センター)
・山下 直宏(大村市医師会 副会長)
・和泉 泰衛(長崎医療センター 総合診療科医長)
・柿田 京子(うぐいすの丘 副施設長)
・藤村 淳子(在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク理事)

お申込み方法

入場は無料ですが事前申し込みが必要です。
下記URLから、「長崎プレ大会 事前申込書」
をダウンロードして下さい
[http://sasaeru-net.org/convention/
dl/190612_nagasaki-pre.pdf](http://sasaeru-net.org/convention/dl/190612_nagasaki-pre.pdf)

第25回 全国の集い in 東京 2019 長崎プレ大会

すべての人に最期はくる
～ちゃんと決めんば、自分の最期～

入場 無料

令和元年
7月15日(月)
開場 10:00
開演 10:30
終演 15:40

市民交流プラザ
プラザおおむら

定員
約130名

講師紹介
飛騨千光寺 住職
日本ホスピス
・在宅ケア研究会 理事
大下 大圓

シンポジスト
大下 大圓(飛騨千光寺 住職)
城代 文香(大村市長寿介護課 地域包括支援センター)
山下 直宏(大村市医師会 副会長)
和泉 泰衛(長崎医療センター 総合診療科医長)
柿田 京子(うぐいすの丘 副施設長)
藤村 淳子(在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク理事)

座長 三嶋 泰之(第25回 全国の集い in 東京大会2019 大会長)
石田 一美(在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク理事
(秋櫻醫院院長))

シンポジウム
座長 三嶋 泰之
石田 一美

講演 ちゃんと決めんば、自分の最期
石田 賢二 長崎プレ大会長
(さくらクリニック院長)

基調講演
講演 自利利他
～自分らしく生き・往くためには～
講師 大下 大圓 飛騨千光寺 住職

入場は無料ですが事前申し込みが必要です。
詳しくは裏面をご覧ください。

主催/特定非営利活動法人 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
共催/大村市 後援/大村市教育委員会 大村市社会福祉協議会 大村市老人クラブ連合会

活動予定

長崎プレ大会
2019年7月15日
場所…大村市

第5回理事会
2019年8月25日
場所…東京

全国の集い 東京大会
2019年9月15・16日
場所…東京

風の萌

2019年7月10日発行(第046号)

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO) 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
医療法人社団 実幸会 いらはら診療所

TEL:047-347-2231 FAX:047-347-2551

<http://www.home-care.ne.jp/net/> E-mail:tokyo-jimukyoku@home-care.ne.jp
〒270-0021 千葉県松戸市小金原4-3-2

◆ 編集「風の萌」編集委員

編集後記

徐々に蒸し暑くなってきました。
夏本番という感じです。
全国大会まで、後2ヶ月ちょっとです。
この時期は、ちょっとした事で体調も崩れがち
になります。
皆様もどうか御自愛ください

(犬童)

在宅生活の継続

理事座長：小倉 和也（はちのへファミリークリニック）

大阪座長：山寺 慎一（医療法人菜の花会 菜の花診療所）

このページは、昨年度大阪大会の抄録集から転載しています。

番号	発表者	所属	演題名
01	志村 緑	医療法人社団佐倉の風 さくら風の村訪問診療所	独居の在宅療養生活
02	赤嶺 麻衣	医療法人優心会 ハートクリニック 病棟	在宅ケアにおける有床診療所の役割
03	菊元 順子	特定医療法人フェニックス	有床診療所に対する同時改訂の新たなメッセージ ～繰り返す複雑な高齢者のケアサイクルを見据えた～
04	嶋田 昌弘	医療法人啓友会 介護老人保健施設 洛西けいゆうの里リハビリ部	在宅復帰に向けたリハビリの一考察 ～在宅復帰に向けた課題とご利用者の気持ちに着目して～
05	池 裕子	社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉 会 有料老人ホーム千金の一日	歩行訓練・立位保持を取入れながらADL向上を目指す ～特定有料老人ホーム（在宅）での暮らしの継続～
06	新垣 卓哉	社会福祉法人 慶生会 慶生会訪問看護ステーション 住道 出張所	伝えたい！生の声！ ～在宅サービス利用者の想いと自立支援の形～
07	斉藤 里美	八戸市医師会訪問看護ステーション	脳死状態にある重症障がい児への訪問看護 ～想いに寄り添うことから見えてきたもの～
08	本田 佐和子	秀峰会 豊穡の大地介護保険センター	ALS患者支援を通して学んだケアマネジャーの役割 ～寄り添うことで得た信頼関係～
09	田中 真弓	特定医療法人フェニックス	ワンストップ総合相談センターの機能を高める ～真の課題を発見、継続的支援を行うために～
10	高原 喜子	菜の花ケアプランセンター	お兄ちゃんやったら、何とかしてくれる……？
11	山下 英明	みぞべ元気塾	「今日の授業おもしろかったですよ」 ～高齢者の塾で科学の授業～
12	細野 志信	医療法人啓友会 小規模多機能 ホームゆ～らり	在宅生活の継続に向けて
13	山口 幸人	社会福祉法人同伸会 瑞光園ホーム ヘルパーステーション	「在宅」希望に寄り添う
14	和田 公香	訪問看護ステーションハートフ リーやすらぎ	転倒を繰り返すパーキンソン病利用者の「住み慣れた 家で生活したい」という思いを支える訪問看護の役割

人材育成・教育

理事座長：桑原 由次

大阪座長：野瀬 博子（社会福祉法人あさか会）

このページは、昨年度大阪大会の抄録集から転載しています。

番号	発表者	所属	演題名
01	階上 弘樹	メディカルコート八戸西病院 リハビリテーション部	退院後の生活状況の調査により見えてきた 課題 ～移動と排泄関連動作に着目して～
02	近藤 真理子	滝の水 憩いの学校	ベテラン PT から学ぶこと
03	池畠 公一	社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉 会 ユニット型特別養護老人ホーム 絆の広場	得意を活かした全員参加の人材育成への取り組み
04	新 智哉	老人保健施設 ラポール吉井	負担の少ない介護の実践にて働きやすい職場環境を 目指して ～介護ロボット・福祉用具を使いこなせる人 材の育成～
05	下野 達郎	特定非営利活動法人ゆうらいふ ゆうらいふヘルパーステーション	ゆうらいふの理念を実践するための全体研修 ～グループワーク方式で全員参加をめざす～
06	三木 真由美	社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉 会 グループホームあざみの家	「私にも出来た！」が自信となり成長につながる ～外出支援・非薬物療法・自立支援への取り組みを通 して～

薬と生活

理事座長：萩田 均司（つばめファーマシー）

大阪座長：道明 雅代（一般社団法人大阪府薬剤師会 副会長）

このページは、昨年度大阪大会の抄録集から転載しています。

番号	発表者	所属	演題名
01	根本 昌幸	株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 八戸店	ICTを活用した保険薬剤師と多職種との連携事例
02	森谷 貴史	友愛薬局小金原店	当薬局における錠剤粉碎調剤の実例
03	寺本 理智	アイ薬局	訪問薬剤はどのように必要なのか ～私にはおばあちゃんがたくさんいます！～

訪問サービス&通所サービス

理事座長：福田 善晴（医療法人大和会 福田心臓消化器内科）

大阪座長：山田 登喜子（特定非営利活動法人 ゆうらいふ）

このページは、昨年度大阪大会の抄録集から転載しています。

番号	発表者	所属	演題名
01	内田 静香	あいち診療会野並 通所リハビリテーション	通所リハビリ利用者様の介護度の変化と当施設の取り組み
02	松井 友子	医療法人宮城会 通所リハビリテーション けやき倶楽部	平成27年度介護報酬から今日までの取り組み
03	渡久山 忍	社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会 デイサービスセンター風の大地	周辺症状が落ち着き、デイサービスを継続して利用したい
04	斜熊 恵亮	リハビリサポートゆうらいふ	通所介護における自立支援 ～「思い」をくみ取り、生かす介護～
05	吉国 親吾	特定医療法人フェニックス	卓球療法の取り組みと行動変容の成果 ～卓球療法を展開し地域、利用者様の活動範囲を拓げる～
06	橋爪 明美	医療法人あいち診療会 憩いの庄	在宅生活者を支えるための看護小規模多機能型居宅介護事業所の役割
07	淵上 操	ゆうらいふナースステーション	心不全の自己管理を支える訪問看護の役割
08	鈴木 瑠美	医療法人あいち診療会 のなみ訪問看護ステーション	訪問 ST の介入により家族・他職種の食への意識が変わりチームとして食支援が可能となった症例
09	蓮尾 ゆかり	医療法人社団都会 ホームヘルプステーションひまわり	老々介護を支える援助とは
10	山下 和美	菜の花ヘルパーステーション	「ゴミ屋敷からの脱出・・・お金は何処に？」 ～家族と一緒に暮らすことを支えるために・・・その後～

地域で支える認知症ケア

理事座長：村山 善紀（医療法人村山内科）

大阪座長：笹山 志帆子（訪問看護ステーション ハートフリーやすらぎ）

このページは、昨年度大阪大会の抄録集から転載しています。

番号	発表者	所属	演題名
01	大平 房子	医療法人社団萌気会 萌気園通所リハビリセンター浦佐	アノナチュラル ～天然事務員の超天然事件簿～
02	佐藤 佳範	萌気園浦佐有料老人ホーム『ハイマート・ハイム島田』	充実した日々を編む ～手作業を通しての関わり～
03	上門 美苑	医療法人社団都会 グループホーム一乗寺ほっこり庵	ほっこりできるふれあい ～私達のできる事～
04	西村 徹	介護支援センターみやぎⅡ	認知症の高齢者やご家族が、安心して暮らせる地域作りの一環として
05	古賀 由起子	小規模多機能型居宅介護事業所 悠久の里	その人がその人らしく・・・!(^^)! ～地域と共に独居・認知症高齢者を支える～
06	川部 伊佐夫	医療法人社団萌気会 萌気園有料老人ホームすみれ草	懐かしい紙芝居で認知症ケア
07	埴岡 加代子	医療法人啓友会 グループホーム めぐみ めぐみ2	お母さん！笑顔でおってな！「続・ふみふみカルタ」 ～出逢いの瞬間を大切に積み重ねたい～
08	広田 創	医療法人社団実幸会 いらはら診療所	グループホームの介護計画に理学療法士が参画した経験

口腔ケアと栄養管理

理事座長：大川 延也（大川歯科医院）

大阪座長：渡邊 充春（わたなべ往診歯科）

このページは、昨年度大阪大会の抄録集から転載しています。

番号	発表者	所属	演題名
01	鈴木 邦治	鈴木歯科	嚥んで食べるということが QOL の改善につながった 1 症例
02	藤原 修志	藤原歯科医院 全国訪問歯科研究会	口腔機能と食形態のミスマッチを改善した 1 例
03	江川 萌美	特定非営利活動法人ゆうらいふ 小規模多機能型居宅介護事業所花梨	人生の最終段階における口から自力で食べられる喜びと大切さ
04	大谷 学	医療法人 大谷歯科	施設での義歯治療により、食形態改善と笑顔を取り戻す
05	坂本 賢一	医療法人みどりグループ リハビリセンター大村	誤嚥を予防した経口摂取の維持で全身状態が改善した一例

○渡邊 充春座長特別講演 「摂食嚥下障がい患者さんとみんなの居酒屋を開設して」

○加藤 武彦先生特別講演 「認知症患者さんに喜んでもらえる義歯治療」

これからの地域包括ケア

理事座長：金田 弘子（森本外科・脳神経外科医院）

大阪座長：草野 孝文（医療法人アエバ会 アエバ外科病院）

このページは、昨年度大阪大会の抄録集から転載しています。

番号	発表者	所属	演題名
01	西村 智弘	社会福祉法人淳涌界 特別養護老人ホーム おふくろの家	特養における終末期ケアの考え方について ～実例をとおして～
02	小林 あいこ	特定医療法人フェニックス 老人保健施設リハトピア・フェニックス	「ほとんど在宅、ときどき施設」を支える看護師 ～老人保健施設看護師は生活を支える影のマルチプレイヤー～
03	長崎 菜穂子	医療法人あいち診療会 のなみ訪問看護ステーション	地域で療養者を支える訪問看護ステーションの役割
04	輪賀 仁美	医療法人菜の花会 菜の花訪問看護ステーション	STOP! ひきこもり、ひとりっきり、寝たきり ～アルコール依存症の独居高齢者に訪問看護師が働きかけたこと～
05	山田 美穂	各務原市地域包括支援センター フェニックス・かかみ野	「新現役世代」に期待する ～定年後世代男組が地域で躍動する～
06	山崎 愛子	NPO 法人囲む会ヘリオフレンド	在宅高齢者の居場所作りと日常生活援助
07	小石 真子	ふみふみカルタ研究会	一般高齢者に対して交流のツールとして健康カルタを取り入れた研究 ～団地に住む高齢者の介護予防に関わるリーダーの支援～
08	今村 達弥	ささえ愛よろずクリニック	多機能型精神科診療所をベースとした地域包括ケアの試み
09	飯島 恵子	ゆいの里、ソーシャルケアワーカー 集団しもつかれいど	これからの地域包括ケア、地域共生社会へ 入口は地域から客体から主体へ 主役は市民！
10	今村 太泉	医療法人坂梨ハート会 坂梨ハート クリニック	「私の体力が続く限り、在宅で介護をしていきたい」 ～過疎地での医療・介護サービス利用の現状～
11	中島 麻衣子	伊勢崎市地域包括支援センター東	地域ネットワークづくりにおける「個人情報」の壁
12	徳田 英弘	医療法人ネリヤ ファミリークリニックネリヤ	奄美大島の医療資源の乏しい村で「自分らしい暮らしを人生の最後まで続ける」ための新たな取り組みへの支援
13	伊藤 情世	医療法人社団静実会 ないとうクリニック	広がれ、訪問栄養食事指導！

新しい試み

理事座長：吉永 隆行（トーヨー・プリント社）

大阪座長：長田 栄一（長田医院）

このページは、昨年度大阪大会の抄録集から転載しています。

番号	発表者	所属	演題名
01	常見 美子	ケアプランセンタ ーおおいど	居宅介護支援課におけるリスクマネジメントへの取り組み（SHELL 分析手法を用いて）パート 2 ★フォローアップ対象
02	濱田 颯太	医療法人宮城会 宮城医院	グループホーム内で大腿骨転子部骨折後保存療法を行い感じたこと
03	田中 いずみ	医療法人啓友会 介護老人保健施設洛西けいゆうの里通所リハビリテーション	電子太鼓とチェアヨガ
04	松木 裕子	特別養護老人ホームあざみの里	ICT 活用しての特養看護師業務改善
05	横田 康弘	医療法人大和会 福田心臓 消化器内科	かかりつけ医療機関としての取り組みについて
06	雑賀 寛政	医療法人ハートフリーやすらぎ	住吉診療所からの市民講座の取り組みを通じて～参加型講座の実践から得たもの～
07	細谷 喜久美	医療法人あづま会グループホーム おおいど	グループホームへのご家族の関わり
08	佐々木 穰史	医療法人社団実幸会 いらはら診療所	松戸市在宅医療・介護連携支援センターの紹介
09	文野 勝利	社会福祉法人慶生会	リハビリテーションネットワークから地域を元気に！
10	恩田 昌恵	生活介護サービス株式会社 グループホームさくら草	～転職で30歳を過ぎてからの介護の世界～ ～私にとっての新しい試み～
11	小林 あゆみ	社会福祉法人桐鈴会 工房とんとん	自己研究して判明したこと
12	内村 奈末	ホームヘルプステーションであい	純真なこどもたち

緩和ケアと看取り

理事座長：三嶋 泰之（さくら風の村訪問診療所）

大阪座長：西村 和美（菜の花訪問看護ステーション）

このページは、昨年度大阪大会の抄録集から転載しています。

番号	発表者	所属	演題名
01	清水 節子	清水医院 在宅・緩和ケアクリニック	筋委縮性側索硬化症患者のその人らしい最期を支えるために ～アドバンスケアプランニングの重要性～
02	茂木 香苗	秀峰会 訪問看護リハビリステーション豊稷の大地	その連携に“愛”はありますか？ ～訪問看護師だからこそできること～
03	横田 雄士	訪問看護ステーション ハートフリーやすらぎ	ターミナル期の独居の高齢者が抱くトータルペインから訪問看護師の役割を考える
04	斎藤 忠雄	斎藤内科クリニック 看護小規模多機能ケアステーションるびなす	「あっかんべ」でありがとう～看護小規模多機能サービスと看取り
05	武田 幸弘	ないとうクリニック複合サービスセンター 看護小規模多機能型居宅介護かがやき	看多機が地域の看取りを変えることができるか
06	小川 越史	鶴ヶ島在宅医療診療所	有床診療所の訪問診療の有用性について
07	繁野 誠	みつよし優心館	サ高住での看取り ～医療法人運営ゆえの宿命～
08	西園 満	フラワーホームホームヘルプサービス	「ここがよか」と言われた方の看取りについて ～本人の思いに沿った高齢者住宅での支援～
09	小川 明子	グループホーム 桐の花	寄り添うケア ～看取りの実践を通して感じたこと～
10	深田 知洋江	ゆうらいふ居宅介護支援事業所	人生の最期を決める「意志決定支援」 ～ケアマネジャーとしての関わりを振り返って～
11	米田 泰弘	居宅介護支援事業所ハートフリー	利用者が望む余生を最期まで自然に支える介護支援専門員としての役割について